

## 環境NPO助成～環境問題に取り組む・NPO団体への助成金事業～

2002年のスタートからこれまでに助成を行った38団体の中より、3件の活動をご紹介します。

### ◆ウミガメを通じて生物多様性の保全をめざす(2007年度助成)

～ウミガメ類混獲防止のための脱出装置の開発～  
NPO法人 日本ウミガメ協議会(代表 亀崎 直樹)

日本ウミガメ協議会は、2009年に放映されたNHKの連続テレビ小説「ウェルかめ」のモデルとなった団体で、近年著しく減少していると言われているウミガメ類の保護と研究活動を行っている団体です。今年6月に開催された「いきものにぎわい市民活動大賞」(主催:経団連他)では日立環境財団賞を受賞しました。

日本の海岸線は、北太平洋で最も重要なアカウミガメの繁殖場で、今でも西日本の太平洋側を中心に全国各地で産卵がみられます。日本ウミガメ協議会は、日本各地で保全活動を行う個人や団体の情報交換を円滑に行う媒体となることでウミガメ類の

日本ウミガメ協議会ホームページ:<http://www.umigame.org/top.html>

保護・研究を進めようという目的で設立され、ウミガメのみならず、その生活の場である海浜や海洋の保護・保全により生物多様性に寄与しています。また、ウミガメの研究者だけではなく、市民や行政、漁業者など多くの人と連携により幅広い活動を行っています。



砂浜からの放流

### ◆この世で一番「エコ」な乗り物をめざして(2009年度助成)

～鉄道よりエコなパーソナルモビリティの実証～  
ソーラーカーチームプロミネンス(代表 宮村 智也)

当財団の助成金を活用して試作された1人乗りの超小型電気自動車が展示されるということで、電気学会の展示会場(8月24～26日、芝浦工業大学)をたずねました。

この超小型車は彼らがめざす、個人がいつでも自由に、そして最も効率的に移動するための次世代型モビリティでPCD(Prominence Commuting Deviceの略)と名づけられています。車とは違う新しい乗り物をめざしたいと、あえてVehicleやCarではなくDeviceとしたそうです。

日本の運輸部門における温室効果ガス発生源の半数は自家用乗用車が占めています。500m先のコンビニエンスストアに行くためだけに4～5人乗りの乗用車に1人で乗る、そんな考え方を見直すきっかけを作りたい、これからは用途によって乗り物を変え

る、そのためにシンプルでエネルギーを浪費しない乗り物が必要なのではないかという考えから辿り着いたのがこのPCDです。完成した試作車は、市街地～郊外の一般道実用走行でwell to wheel<sup>(注)</sup>での温室効果ガス原単位が国内旅客鉄道を下回ることが確認できました。

開発に関わる詳細なデータや苦労話、走行中の動画などはプロミネンスのホームページでご覧いただけます。



開発チームの皆さん(左端:チーム代表の宮村さん)  
第1種原動機付自転車(ミニカー)のナンバープレートを取得。公道で走行可能です。  
最高時速:75km/h 1充電の走行距離:90km

Team Prominenceホームページ:[http://blog.livedoor.jp/team\\_prominence/](http://blog.livedoor.jp/team_prominence/)

(注) well to wheel:well(井戸=油田)からwheel(車輪=自動車)を意味し、末端のCO<sub>2</sub>排出のみではなく、エネルギーを産出する段階からの総合的CO<sub>2</sub>収支を考えるべきであるという考え方。

### ◆地域における3R(reduce, reuse, recycle)・循環型社会の創造(2010年度助成)

～竹鶏物語 3R《地域拡大》プロジェクト～  
四日市大学エネルギー環境教育研究会(代表 新田 義孝)

9月某日、本年度の助成金受領団体で、現在プロジェクト進行中の四日市大学エネルギー環境教育研究会をたずねました。彼らは「ごみ問題」「食の問題」「エネルギーの多使用」「竹林の荒廃」「地産地消」など地域社会が抱える問題を解決し、持続可能な社会を創造することを目的として「伊勢竹鶏物語」という取り組みを行っています。

「伊勢竹鶏物語」とは、大量に廃棄されている規格外のパンや野菜くず等と、間伐で不要になった竹を細かく粉碎し、微生物を混ぜ発酵させて作った飼料で養鶏を行い、その鶏糞を堆肥化して利用し、野菜や穀物を栽培する、という地域内での循環型社会

創造プロジェクトです。この飼料で育てた鶏とその卵は特有の臭いが無く、卵の味は濃厚と高い評価を得ており、地元の洋菓子店や老舗旅館などで歓迎されています。

この取り組みは大学教授、研究者、廃棄物事業者、学生、市民、行政など、多種多様な主体の協力により行われており、ビジネスモデルとして機能するようになれば、環境のみならず地域貢献という視点からも大変大きな意義を持つものだと感じました。



朝採りの新鮮な卵(スタッフの田代さん)

四日市大学エネルギー環境教育研究会「伊勢竹鶏物語」  
ホームページ:<http://www.yokkaichi-ene.com/taketo ri/>